

極東國際軍事裁判所

第一

亞米利加合衆國其他对荒木貞夫其他

私濠洲陸軍中尉 濠洲聯邦「ヴィクトリア」/VICTORIA/  
州「カースルメイン」/CASTLEMAINE/、「アレキサンダー・ゴードン・ウェントン」/Alexander Gordon WEYNTON/に宣誓、上、通、  
陳述ス

一九四四年/昭和十九年/三月八日私、一九四四年/昭和十九年/二月  
二十九日日本裁判所が私に課シテ懲役十年、刑ニ服スル爲  
「クッチン」/KUCHING/カラ「シンガポール」/SINGAPORE/へ護  
送サレタ。同裁判所テ懲役ヲ宣告サレタ十九名、他、捕虜が  
私ト同行シタ。

一九四四年/昭和十九年/三月十一日、我々「アウトラム・ロード」/OUTRAM  
ROAD/監獄へ連テ行カレタ。我々、襯衣一枚ト猿股ツ  
ヲ與ヘラレタ。自分達、着タイタモノ、取ラレタ。我々、各自一  
枚、先布、長サ六呎、幅三吋、木、板三枚ト長サ一呎四吋  
平チ、木片ヲ與ヘラレタ。コノ木片ハ一方が僅ニツリ板カレ  
テ井テ枕トシテ用ヒラレルヨウニナツテ井タ。右、木、板、寢床  
トシテ用ヒルタメデアツタ。我々ハコンクリート造リ、奥行十呎間  
口四呎高サ十二呎、監房ニ二人ツツスレラレタ。天井、上ニ一呎四  
方、口ガ一ツアツタ。丁度二人が並ニテ横ニナルダケ、余地ガアツタ。  
コレヲ、監房ハ以前一監房ニ一名、要細亞人、囚人ヲ收容

Doc 5397

No. 1

Doc 5397

スルコトニ英國側デ用ニイタモ、デアラス。

三 我々一日三回野菜、根ヲ作ツタ「スープ」ト收監中、日本人、囚人、残物ヲ水デ煮タモノヲ貰フ。我々ハ又一日ハ「ライス」、米ヲ支給サレタ。又二週二三回湯ケタ奥、頭ヲ貰フ。一日三四分ノ「バイント」、水ヲ與ヘラレタ。此量ヲ超過スルト一日一回以上便壺ヲ汲取ラセバナラナカッタ。日本人ハコ、量ヲ超過スルコトヲ拒ナタ。

四 最初ノ三四日間我々ハ監房ヲ離レルコトヲ許サズ終日不動ノ姿勢ヲ定メ折ツテ座ツチイナケバナラナカッタ。他ノ監房カラ人々ガ殴打サレル音ヤ叫聲ガ聞エタ。

五 ソノ後我々ハ毎日午前八時カラ正午迄又午後一時リラ五時迄外ヘ出テ労働サセラレタ。捕虜、内或者ハ監獄、附近、様々ナ勞役、或者ハ監獄、度、勞役ニ又残余ノ者ハ麻、摘取ニ從事ス。麻、摘取ハ我々ハ地上ニ脚ヲ組ンデ座ラネバナラナカッタ。監守ハ俘虜ガ麻ヲ十分ニ摘ミカッタと思フ場合ハ既ニ之ニイ定糧ヲ更ラニ減ラスノガ常デアッタ。

六 我々が到着シタ時監獄ニ居クハ十名、俘虜ハ全部疥癬ニ罹ツタ。俘虜ハ又赤痢、脚氣、タビ諸種、栄養失調症ニ罹ッタ。病人ハ地面ニ突立テラシ其ノ上ニ覆ラシテアル四本棒デ区分シテアル区域ニ毎日連ヒテ行カレタ。病人ハ監守附デマ覆、下ニ寝カサレタ。話ヲスルコトハ許サレナカッタ。起キ上ガルコトガ出来ルハ麻摘ミヲシサセバナラナカッタ。コノ病人達ノ数ハ八人乃至八十五人、俘虜ノ全員中十人乃至二十五人、間ヲ往來シテイタ。彼等ハ普通食定糧、半分シカ支給サレナカッタ。治療ハ全然受ケラズ時折医者ガ来テ入院セシタル者ヲ定メタルデアッタ。

No. 2

Doc 5397

No. 3

- 七 一九四四年/昭和十九年五月十八日私、病氣デ立ッコトカ出来ズ且ッ赤痢、脚氣、疥癬、紅斑病/Pellagra/ニ罹ッテ「チャング」/CHANG/俘虜收容所病院へ送ラシタ。私、其処ニ一九四五年/昭和二十年四月十四日迄居テ、其日監獄へ歸一サシタデアツタ。
- 八 私、一九四五年/昭和二十年七月、第一週迄学役ニ従事セシマレタ後「ブキティマ」/BUKITIMAH/射撃場ニ遣ラシタ。此処、労働、病弱状態ニアル俘虜ニトツテ、過激ナモノデアツタ。仕事、鶴嶋ト「シヤベル」デヤル労働デ隧道掘トリシニ類ニル仕事デアツタ。仕事一般の性質、日本軍、防禦陣地構築デアツタ。
- 九 一九四五年/昭和二十年四月、私、病院カラ歸ッテキタ時、食事、定糧、米一日付六オンス、煮タ野菜一匙、腐敗シタ蝦ト蟹デ作ツタ煮タ「ブラチン」/Blachan/少量ニ減ラサレテイタ。コレ、一九四五年/昭和二十年八月釋放サレル迄我々が受ケタ食事、全部デアツタ。
- 一〇 病人、医者ニ診テ貰ハナイ外、私が病院へ行ク前ト同様ニ扱ハタ。
- 二 殴打、屢々行ハト、監行ハ私、抑留全期間ヲ通ジテ行ハレタ。木片、劍、及鞘カソ、目的ニ用ヒラシタ。「ブラドリ」/BRADLEY/トイフ英國、砲兵ハ看守、役ヲ務メ日本兵、模範俘虜五十二番ト六十六番ニ特ニ屢々殴打サタ。彼、死ヌ一週間前ニ五十二番ノ看守ニ非道イ虐待ヲ受ケタ。彼ハ弱シテイタ。彼ハ病氣ニナリ暫クノ間、定糧、半分ヲ喫ヒタ。彼ハ摘ミニゲラシテカラ地面へ叩キツケラシタ。彼、腕、脚、頸、身体、突出テイル部令ハ振リ廻サレ終ニハ彼ハ大声ヲ発シ泣叫バノデアツタ。彼、顔ハ汚物デ擦ラシタ。彼、身体中激シク殴打サレ、肋骨、顔面鼠蹊部ヲ蹴ラシタ。彼ハ皮膚、

Doc 5397

大部命ヲ失フ。私ハ彼ガ死シタ時彼、隣リ、監房ニ居タ。彼、泣叫ビテ唸ツクニテイタ。彼ヲ助ケル手段ハ何モ行ハレナカッタ。彼、医者、治療又ハ看護ヲ與ヘラレナカッタ。看守達ハ彼、死直前迄辱々彼ニ食物、水ヲ與ヘルコトヲ拒メタ。彼、叫声ト唸声ハ次第ニ弱クナツテ行キ五十三卷ニ殴打サレテ後一週間ニ辛彼ハ死シタ。

私ハ和蘭國籍、改正混血人ガ「ラドリー」/RADLEY/ニ加ラシタ、ニ対シ私ガ述べタト同ジ様ナ殴打ヲ受ケタヲ見タ。

「クリス」/KRIS/トイフ今一人、和蘭人ハ赤痢ト脚氣ヲ病ニテイル時激シク殴打サレタ。

私自身隣ニイル男ニ語掛ケタトイフ廉デ非道ク打タ助骨ト腿ヲ蹴ラシタ。其後三週間、間私ハ股骨、左側、皮膚骨、破レニシタ。

三一九四年/昭和九年/十二月若シクハ一九四五年/昭和二十年/一月新嘉坡空襲中B29尾機ガ撃墜ナレ火ヲ発シタ搭乗員中、二人ハ非道ク火傷シタ。此二人ハ「アウトラム・ロード」/OUTRUM ROAD/監獄ニ連テ来ラシタ。二人ハ將ニ火傷ゲラゴ、一ノ塊ヲシタ、シテ頭カ、足迄黒クナツテイタ。二人ハソ、監房ニ收容セシメテ何ソ治療ヲ受レコトヲ許サレナカッタ。

三一九五年/昭和二十年/六月式ルニ曜日、午後私ハ九名、聯合軍航空隊員一隊ハ監房カ、引出サレ、ヲ見タ。彼等ハ嚴重ニ武装シタ、監視ト日本人、埋葬班ヲ引率サシ。此一隊、数人ハ日本兵、標靶ニシテ射テタ。数日後、~~人~~人ハ九人、航空隊員ニ首ヲ切ラシ自命達ナシ、埋葬ヲチ傳ヒタ。日ハ私ニ語シタ。



Doc 5397

四. 四月一九四五年昭和二十年五月から七月ニカケテ私ハ十七人、聯合軍  
航空隊員ト十五名、中國々籍、一般ノ処刑、為同様ノ状態  
ヲ連立サレルヲ見タ。埋葬班ハ歸ソテキタカ、俘虜達ハ歸ッ  
テコトカッタ。埋葬班ハ歸ソテキタトモ恰モ彼等ガエヲ掘ッテイ  
名ノ様ニ汚レテイタ。私ハ便室ヲ取ッニ行ク仕事ヲ航空隊  
員達、監房ヲ往復シタ、テ彼等ト多少接触スル機會ガアッ  
タ。彼等ハ公判ニ附サレカッタト私ニ話シタ。

五. 私ハ一九四五年昭和二十年八月日本軍ガ降服シタ時釋放サレタ。

(署名) 「エイ・ジイ・ラエーニ」 / A. G. WEYNTON /

一九四六年昭和二十年十一月本ニテ東京ニ於テ

余、面前ニテ宣誓セリ

(署名) 遠東洲陸軍中佐「トーマス・F・モーネー」  
/ Thomas F. MORNANE /

No. 5